とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略

令和５(2023)年３月

栃　木　県

栃木県誕生150年
みんなで創る、未来のとちぎ

目　次

Ⅰ　とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略策定の趣旨等・・・・・・・・・・・・・1
1　策定の趣旨・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3　戦略の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅱ　本県におけるスポーツを取り巻く状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1　県内の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
⑴　東京 2020 オリンピック・パラリンピック及びいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催によるスポーツに対する県民の機運向上と「新しいとちぎ」づくりへの期待・2
⑵　県民総スポーツの推進拠点たる「総合スポーツゾーン」の完成・・・・・・・・・・2
⑶　県内プロスポーツ、社会人・学生スポーツの活躍と有望選手の輩出・・・・・・・・3
⑷　全国から参加者が集まる民間主導による県内スポーツイベントの開催・・・・・・3
⑸　スポーツによる地域活性化に取り組む県内自治体の登場・・・・・・・・・・・・・4
⑹　市町や民間との連携による県域レベルのスポーツイベントの展開・・・・・・・・・4
2　全国の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
⑴　スポーツツーリズムに対するニーズの高まり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
⑵　国による第３期スポーツ基本計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
⑶　他団体のスポーツコミッションの設立等による地域活性化の推進・・・・・・・・・5
3　本県のスポーツを活用した地域活性化に向けた強みと今後の課題等・・・・・・・・6
⑴　地理的・文化的特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
⑵　県内のスポーツ資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
⑶　本県への観光客入込動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
⑷　いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の有形・無形のレガシーの継承・・・・・・・15
⑸　スポーツを活用した地域活性化に向けたＳＷＯＴ分析・・・・・・・・・・・・・・16
⑹　様々な地域別特徴を生かした取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
⑺　県内スポーツツーリズムに対するニーズ・期待等・・・・・・・・・・・・・・・・19
Ⅲ　スポーツを活用した地域活性化・地方創生等の目指すべき姿・・・・・・・・・・・20
Ⅳ　本県のスポーツを活用した地域活性化・地方創生等の具体的な取組・・・・・・・・21
1　スポーツツーリズムの推進による地域活性化・地方創生への取組・・・・・・・・・21
⑴　スポーツコミッションの設立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
⑵　大規模大会・スポーツイベント等の誘致・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
⑶　スポーツ合宿等の誘致・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
⑷　テーマ別スポーツツーリズムの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
⑸　スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等の推進・・・・・・・・・・・・・・・25
⑹　県民協働によるスポーツツーリズムの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
2　社会的な課題に係るスポーツコミッションによるデジタルも活用した県外への情報発信等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
⑴　スポーツを通じた高齢者の生きがいづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
⑵　スポーツを通じた女性活躍の促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
⑶　スポーツを通じた障害及び障害者への理解促進、共生社会の実現・・・・・・・・30
⑷　スポーツを通じた健康増進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
Ⅴ　スポーツを活用したＳＤＧｓへの貢献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
Ⅵ　とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略の推進体制及び進行管理・・・・・・32

Ⅰ　とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略策定の趣旨等

１　策定の趣旨・目的

本県では、令和４(2022)年に 42 年ぶりの開催となる第 77 回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び本県で初めての開催となる第 22 回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」が行われました。

いちご一会とちぎ国体では、選手やボランティア、観覧者等総勢約 40 万人の参加のもと正式競技 37 競技、特別競技１競技、公開競技５競技、デモンストレーションスポーツ 31 競技が県内各地及び県外１都市で行われ、県全体を舞台に多くの県民に感動を与えたほか、開催地として男女総合第２位、女子総合第２位を獲得するなど、輝かしい成績と将来に誇れる開催実績を残すことができたところです。

また、いちご一会とちぎ大会では、個人競技７競技及び団体競技７競技に加え、オープン競技３競技が行われ、開催地として過去最多となる 144 個のメダルを獲得する素晴らしい実績を残した選手の姿は、多くの県民に希望を与えたほか、スポーツを通じた障害者の社会参加の推進や障害者スポーツの楽しさの体験など、共生社会の実現に向けて大きく寄与することができたところです。

両大会を通じて、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのとおり、全国から参加した選手たちの連日の熱戦が多くの県民の記憶に残るとともに、日本一のおもてなしや環境配慮への取組、徹底した新型コロナウイルス感染防止対策などにより、未来につなぐ大会とすることができました。

今後は、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を契機として創り出された様々な有形・無形のレガシーを確実に継承し、「新しいとちぎ」づくりにどのようにつなげていくかが課題です。

そのため、本戦略は、本県のスポーツを取り巻く現状や課題等を明らかにしつつ、にぎわいあふれ、県民がふるさとに愛着と誇りを持てるとちぎを見据えながら、本県のスポーツを活用した地域活性化の推進に向けて、県として何をすべきか、取り組むべき施策の方向性を示すことを目的とします。

２　位置付け

この戦略は、次の性格を持つものです。

⑴本県のスポーツを活用した地域活性化に関する基本的な指針となる計画

⑵栃木県重点戦略「とちぎ未来創造プラン」及び栃木県版まち・ひと・しごと創生総合戦略「とちぎ創生１５戦略（第２期)」を踏まえた計画

⑶「栃木県スポーツ推進計画 2025」と調和の取れた計画

⑷「新とちぎ観光立県戦略」と調和の取れた計画

３　戦略の期間

本戦略の期間は、令和５(2023)年度から令和７(2025)年度までの３年間とします。

なお、期間中であっても、大きな社会情勢の変化や、本県を取り巻く環境の急激な変化を踏まえ、必要に応じて戦略の見直しを行います。

Ⅱ　本県におけるスポーツを取り巻く状況

１　県内の状況

⑴東京 2020 オリンピック・パラリンピック及びいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催によるスポーツに対する県民の機運向上と「新しいとちぎ」づくりへの期待

新型コロナウイルス感染症の影響により、１年延期されての開催となった東京 2020 オリンピック・パラリンピックでは、無観客開催となったものの、世界各国から参加した選手たちの熱い戦いが国民の感動を呼び、改めてスポーツへの関心が高まっています。

県内では、ハンガリー（陸上競技・テコンドー・水球・近代五種・トライアスロン）、スペイン（水球）、オーストリア（トライアスロン）、キプロス（陸上競技、自転車競技）が事前キャンプを行い、大会後においてもホストタウンとしてスポーツや文化等を通じた国際交流につなげています。

さらに、東京 2020 オリンピック・パラリンピック及びいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会により高まったスポーツに対する県民の機運を背景として、これら大会の有形・無形のレガシーを継承し、「新しいとちぎ」づくりに向けた取組が求められています。

ユウケイ武道館で練習するテコンドー選手団

いちご一会とちぎ国体及びとちぎ大会
公式ポスター

⑵県民総スポーツの推進拠点たる「総合スポーツゾーン」の完成

平成 26(2014)年から整備を開始した総合スポーツゾーンについては、令和元(2019)年にユウケイ武道館（武道館）が、令和２(2020)年にカンセキスタジアムとちぎ（陸上競技場）が、そして令和３(2021)年に日環アリーナ栃木（東エリア運動施設）が順次供用開始となり、令和４(2022)年４月１日には「県民総スポーツの推進拠点」と位置付ける総合スポーツゾーン

（栃木県総合運動公園）全域での完成供用となりました。

令和４(2022)年 10 月には、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開・閉会式が開催されたほか、陸上競技や競泳、バスケットボールや柔道、剣道、弓道などの様々な競技会場となり、多くの観客が訪れました。

総合スポーツゾーンの完成により、「する」ことだけでなく、「みる」「ささえる」など様々にスポーツと関わる機会の充実に向けた環境が整備され、今後は国際親善試合やプロを含むトップチームの試合の開催から生涯スポーツやレクリエーションでの活用など幅広い取組が期待されます。

⑶県内プロスポーツ、社会人・学生スポーツの活躍と有望選手の輩出

県内には８つのプロスポーツチームと日本のトップリーグに所属する複数のチーム拠点がありますが、これらのチームの近年の活躍は目覚ましく、本県スポーツの実力が高いレベルにあることがうかがえます。

また、県内には、大学及び高校を対象とする全国大会で優勝する学校が存在し、これらのチームに所属していた選手が、卒業後も全国のプロチームや進学先等で活躍し、本県出身選手が全国に感動を与えるとともに、社会に貢献していくことが期待されます。

主な本県チームの近年の活躍状況

チーム	内容
宇都宮ブレックス	Bリーグ2021-22シーズン優勝
ＬＩＥＢＥ栃木	第96回全日本男子ホッケー選手権大会優勝
グラクソ・スミスクラインOrange United	第83回全日本女子ホッケー選手権大会優勝
白鷗大学男子バスケットボール部	第73回全日本大学選手権大会優勝
国学院大学栃木高校ラグビー部	第101回全国高校ラグビー大会準優勝
足利大学附属高校女子弓道部	令和3年度全国高等学校総合体育大会優勝

【いちご一会とちぎ国体】〔第１位〕剣道等 9 団体、21 人〔第２位〕体操等 4 団体、22 人
競技別総合成績第１位　8 競技

⑷全国から参加者が集まる民間主導による県内スポーツイベントの開催

これまでにも、県内の多くの自治体で住民の体力向上や健康づくり、社会参加の促進等を目的とするマラソン大会やウォーキング大会等のスポーツイベントが開催されてきました。近年、インターネットの普及等により全国から参加者を募ることが可能となり、現在では県外からの参加者が多く存在する状況にあります。

こうした中、本県の恵まれた自然環境等を生かしたサイクルイベントやトレイルランニング大会、ウォーキング大会などの民間主導によるスポーツイベントも開催されるようになり、スポーツ大会への参加や観戦、応援、開催支援等を目的として、全国から本県を訪れる機会が増えてきています。

〔県内の民間主導による主なイベント〕

日光国立公園マウンテンランニング

那須高原ロングライド

⑸スポーツによる地域活性化に取り組む県内自治体の登場

これまでにも全国の自治体では、スポーツ都市宣言やスポーツ立県を目指す自治体が出ており、様々な取組が進められてきたところですが、近年では、県内自治体の中でも、スポーツを活用して地域活性化等を図ろうとする取組が出てきています。

＜県内のスポーツによる地域活性化の取組例＞

〇宇都宮市　宇都宮市経済・地域の活性化に向けたスポーツ都市戦略の策定
ＦＩＢＡ３ｘ３ワールドツアーうつのみやオープナー、ジャパンカップサイクルロードレースの開催

〇矢板市　矢板市スポーツツーリズム推進アクションプランの策定、矢板市スポーツコミッションの設立

〇栃木市　食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画の策定
渡良瀬バルーンレースの開催による渡良瀬遊水地周辺観光の促進
（ラムサール条約登録湿地）

〇小山市・野木町　サイクルフェスタ開催による渡良瀬遊水地周辺観光の促進

⑹市町や民間との連携による県域レベルのスポーツイベントの展開

本県では平成29(2017)年から令和元(2019)年までの３年間において、県内各市町を舞台とした国際公認のサイクルロードレース「ツール・ド・とちぎ」が開催され、自転車イベントの開催を通じたとちぎの地方創生の推進のほか、「自転車先進県“とちぎ”」の世界に向けた発信や栃木県のブランドイメージの向上、開催地域の歴史・文化・食などの資源を活用したとちぎの新たな魅力の創造等を推進してきたところです。

その後、宿泊やコト消費体験などのおもてなしを取り入れながら県内各市町を巡り、本県の魅力を堪能できるサイクルイベント「ぐるとち」が、令和４(2022)年から新たに行われ、年間を通して観光誘客・地域振興等の推進を図っています。

２　全国の状況

⑴スポーツツーリズムに対するニーズの高まり

スポーツツーリズムとは、スポーツの観戦や実施を伴った旅行とされていますが、平成23(2011)年６月、国は「スポーツツーリズム推進基本方針」を策定し、スポーツを通じた新しい旅行の魅力創出や地方に存在する多種多様な地域観光資源を顕在化させた、訪日旅行・国内観光の活性化を図ること等を目指すことを掲げました。

その後、スポーツツーリズムの推進に取り組む団体等の増加を背景に、国は第２期スポーツ基本計画において、スポーツツーリズムの活性化とスポーツによるまちづくり・地域活性化の推進主体である、地域スポーツコミッションの設立を促進することなどにより、スポーツツーリズム関連消費額の拡大等を図ることとしたところです。

⑵国による第３期スポーツ基本計画の策定

第３期スポーツ基本計画（2022～2026）では、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのスポーツレガシーの継承・発展に資する重点施策が新たな取組として示されていますが、地方創生・まちづくりが重点施策の１つに掲げられたほか、今後５年間に総合的かつ計画的に取り組む 12 の施策としても、スポーツによる地方創生、まちづくりが示されています。

第３期スポーツ基本計画（2022～2026年）の概要

１　東京オリ･パラ大会のスポーツ･レガシーの継承･発展に資する重点施策

- 持続可能な国際競技力の向上
- 共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進
- スポーツを通じた国際交流･協力
- 大規模大会の運営ノウハウの継承
- 地方創生･まちづくり
- スポーツに関わる者の心身の安全･安心確保

２　スポーツの価値を高めるための第３期計画の新たな「３つの視点」を支える施策

- スポーツを「つくる／はぐくむ」
- スポーツで「あつまり／ともに／つながる」
- スポーツに「誰もがアクセスできる」

３　今後５年間に総合的かつ計画的に取り組む１２の施策

①多様な主体におけるスポーツの機会創出	②スポーツ界におけるＤＸの推進	③国際競技力の向上
④スポーツの国際交流・協力	**⑤スポーツによる健康増進**	**⑥スポーツの成長産業化**
⑦スポーツによる地方創生、まちづくり	**⑧スポーツを通じた共生社会の実現**	⑨スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
⑩スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材	⑪スポーツを実施する者の安全・安心の確保	⑫スポーツ・インテグリティの確保

⑶他団体のスポーツコミッションの設立等による地域活性化の推進

近年、多くの自治体がスポーツを生かした地域活性化に向けた戦略等の策定や官民一体となってスポーツを通じた地域活性化の取組を行う組織の設立などにより、県内外の交流人口拡大に向けた取組を進めています。

スポーツ庁は第２期スポーツ基本計画において、地域スポーツコミッション設置数について、令和３(2021)年度末までに 170 とすることを目標として取組を進めてきましたが、令和３(2021)年 10 月末時点で 177 団体が設置されています。

【他団体における戦略・スポーツコミッションの設立状況】

①戦略・構想の策定
- 岩手県文化・スポーツ振興戦略(2017 年)
- 山梨県スポーツ成長産業化戦略(2021 年)
- 熊本県スポーツツーリズム推進戦略(2021 年)
- 名古屋市スポーツ戦略(2021 年)
- 京都府スポーツ観光振興構想(2015 年)　等

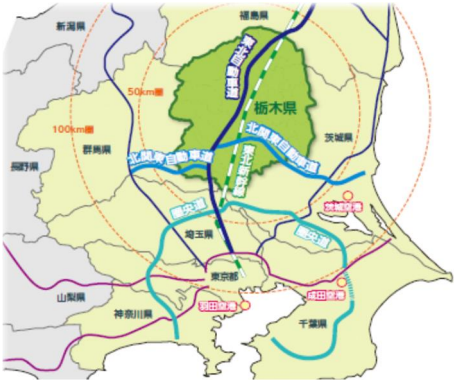
②事業の実施（都道府県レベルのスポーツコミッションの設立等）
- いわてスポーツコミッション(2017 年)
- 山形県スポーツコミッション(2018 年)
- 福井県スポーツまちづくり推進機構(2019 年)
- 長野県スポーツコミッション(2016 年)
- 清流の国ぎふスポーツコミッション(2014 年)
- 静岡県スポーツコミッション推進本部(2022 年)
- あいちスポーツコミッション(2015 年)
- スポーツアクティベートひろしま(2020 年)
- 徳島県スポーツコミッション(2021 年)
- 高知県スポーツコミッション(2021 年)
- 福岡県スポーツコミッション(2020 年)
- 佐賀県スポーツコミッション(2013 年)
- 長崎県スポーツコミッション(2016 年)
- 熊本県スポーツコミッション(2022 年)
- 大分県スポーツ合宿誘致推進協議会(2021 年)　等

３　本県のスポーツを活用した地域活性化に向けた強みと今後の課題等

本県においてもスポーツを活用した地域活性化に向けた取組を検討するため、本県の現状から強みや今後の課題等について整理し、そのうえでスポーツツーリズムの推進など取組の方向性を明らかにします。

⑴地理的・文化的特性

①恵まれた立地環境



本県は、関東地方の北部に位置し、政治・経済・文化等の中心であり巨大マーケットを持つ東京に 60～160km 圏と近接し、都心から約１～２時間でアクセスできる立地環境にあるほか、東北新幹線や東北自動車道等の東京と東北・北海道を結ぶ南北軸と、北関東自動車道などの太平洋・日本海を結ぶ東西軸の結節点に位置し、交通の要衝としての地理的優位性を有しております。

②豊富な自然資源

本県は、総面積が約 6,408 ㎢で、その約 54%を森林が占めています。関東都県中最も広大な面積を有し、北部の日光・那須の山々から南部の平野まで、県土全体が水と緑の美しい自然に恵まれています。また、本県は全国有数の温泉県でもあり、県の西部から北部の山岳地帯では多くの温泉が湧出しています。

＜県内の主な自然資源＞

区分	主な箇所
山	白根山(2,578m)、男体山(2,486m)、女峰山(2,483m)、帝釈山(2,455m)、錫ヶ岳(2,388m)
河川	鬼怒川(124.8km)、那珂川(118.5km)
湖	中禅寺湖(11.9km2)
湿地	奥日光の湿原(湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代原、260.41ha)、渡良瀬遊水地(約20km2)

＜本県の温泉関係データ＞　　令和２(2020)年度

区分	数量等
宿泊施設数	419軒(全国9位)
延べ宿泊利用人数	2,384,904人(全国9位)
温泉を利用した公衆浴場数	240軒(全国9位)

(出典)栃木県温泉保護開発協会連合会HP

③地域に根差した歴史・文化、食

本県は、古くから人やモノが盛んに行き交った東山道や奥州街道、日光街道などの主要街道が南北に通る地域であり、その長い歴史の中で育まれ、今日まで守り伝えられてきた世界遺産日光の社寺をはじめとする歴史的価値の高い貴重な資源が数多く存在しています。また、昭和43(1968)年から半世紀以上にわたり生産量日本一のいちごや宇都宮餃子®、佐野ラーメンなど魅力的な食が豊富に存在しています。

⑵県内のスポーツ資源

①スポーツ施設

(施設数)

本県には公共スポーツ施設が1,032ヵ所、民間スポーツ施設が638ヵ所あります。施設の種類ごとに数量を並べると、いずれも上位に位置しており、全国的に見て本県にはスポーツ施設が豊富に立地しています。

県内の主な種目別スポーツ施設数（公共スポーツ施設＋民間スポーツ施設）

区分	陸上競技場	野球場	プール(屋内外)	球技場	体育館	武道館	弓道場	ゴルフ場	スキー場	テニス場	キャンプ場
数量	30	239	100	90	171	63	35	153	4	115	57
順位	9位	7位	16位	6位	23位	19位	12位	3位	20位	19位	10位

（出典）平成30年度体育・スポーツ施設現況調査　（ゴルフ場は平成27年度体育・スポーツ施設現況調査の数値）

また、平成30(2018)年度の特定サービス産業実態調査では、本県のスポーツ施設提供業は349ヵ所となっており、人口10万人当たりでは17.5ヵ所と全国で最も多い状況となっています。

このほか、本県は国体本大会と冬季大会両方の開催実績がある19団体の１つであり、一年を通じてスポーツに取り組める環境が整っています。

【県内の主なスポーツ施設の例示】

■栃木県総合運動公園カンセキスタジアムとちぎ（陸上競技場）

（主な開催実績）
・いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会（開・閉会式、陸上競技）
・なでしこジャパン国際親善試合

■栃木県総合運動公園ユウケイ武道館（武道館）

（主な開催実績）
・いちご一会とちぎ国体（柔道、剣道、弓道）

■栃木県総合運動公園日環アリーナ栃木（東エリア運動施設）

（主な開催実績）
・いちご一会とちぎ国体（水泳、体操、バスケットボール）
・水泳飛込日本選手権

■日光霧降アイスアリーナ

（主な開催実績）
・いちご一会とちぎ国体（アイスホッケー）
・アジアリーグ（日光アイスバックス）

■宇都宮清原球場（宇都宮市）

（大会等開催実績）
・いちご一会とちぎ国体（軟式野球・高等学校野球（硬式））
・ＮＰＢ読売ジャイアンツ対広島東洋カープ戦(2022)

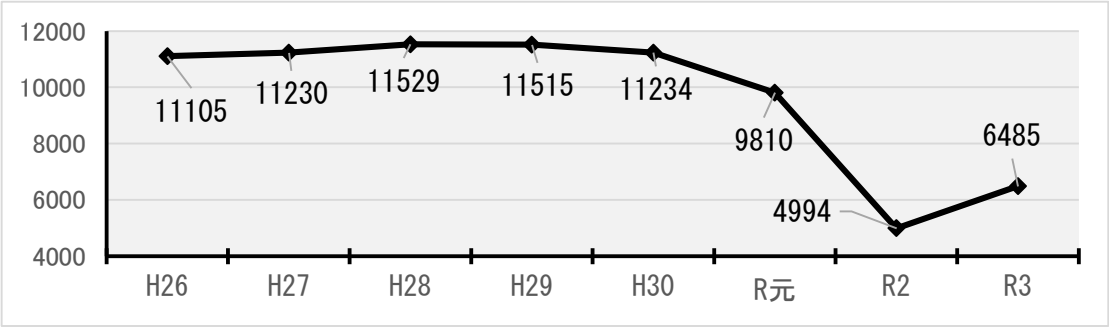
■佐野市国際クリケット場

（大会等開催実績）
・ＩＣＣ男子Ｔ20クリケットワールドカップ東アジア予選
・ICC U19クリケット・ワールドカップ南アフリカ大会東アジア太平洋予選

（利用状況）

本県の公立スポーツ施設の年間利用者数は1,100万人を超えていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による休館等により、令和２(2020)年度は500万人を下回る水準にまで低下し、令和３(2021)年度は648万人まで持ち直したところです。

公立スポーツ施設利用者数の推移（千人）



（とちぎスポーツ医科学センター）

このほか、県では、スポーツ関係施設として「とちぎスポーツ医科学センター」を整備し、最先端の機器による測定データに基づくアスリートチェックやパフォーマンス分析などの各種サポートの提供に加え、メンタルトレーニングや栄養サポートなどによる競技力向上を図っています。

同センターは（独法）日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)ネットワーク連携機関の指定を受けており、HPSC が定める基準・方法により、アスリートに対して体力測定を実施できる機関となっています。

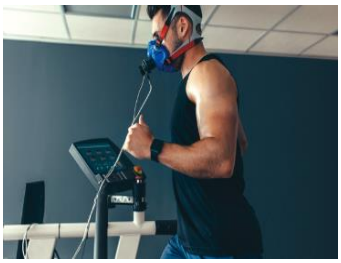
今後は、スポーツ医科学の有効性のＰＲに努め、同センターの効果的な利活用を推進していくことが求められます。

都道府県・政令市設置のスポーツ医科学センター

★は HPSC ネットワーク連携機関（全国で９公共施設のほか８大学を指定）

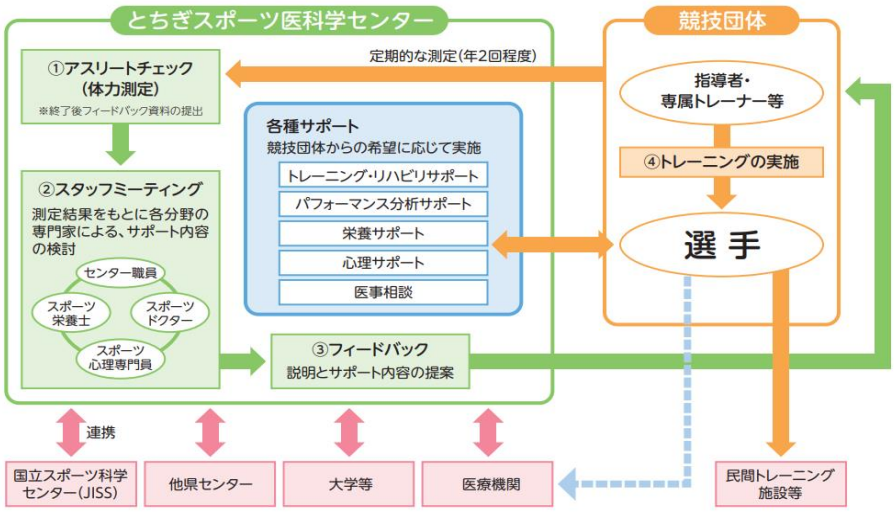
区分	名称	区分	名称
北海道	北海道立総合体育センター★	富山県	富山県総合体育センター★
青森県	青森県スポーツ科学センター★	石川県	いしかわ総合スポーツセンター
秋田県	秋田県スポーツ科学センター	岐阜県	岐阜県スポーツ科学センター
栃木県	とちぎスポーツ医科学センター★	滋賀県	滋賀県立スポーツ会館
群馬県	群馬県総合スポーツセンター	京都府	京都トレーニングセンター★
横浜市	横浜市スポーツ医科学センター★	高知県	高知県スポーツ科学センター★
千葉県	千葉県総合スポーツセンター内 スポーツ科学センター★	山口県	やまぐちスポーツ医・科学サポートセンター
新潟県	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター★	長崎県	長崎県立総合体育館

アスリートチェック



パフォーマンス分析

とちぎスポーツ医科学センターでの講習会



②プロスポーツチームの状況

全国のプロスポーツチームは９競技 217 チーム（令和４(2022)年９月末調べ）が設立されていますが、うち本県には６競技８チームが存在し、プロチームが設立されている競技数は全国でトップレベルにあり、他県と比較して身近にプロスポーツが存在する環境にあります。

プロスポーツは「みる」スポーツの代表的存在であり、トップレベルの選手を間近に観戦できる機会を創出するとともに、地域活性化に向けた誘客促進が期待されることから、引き続き県内プロスポーツチームに対する支援を行うとともに、高い情報発信力を持つプロスポーツチームの効果的な活用やチーム横断的に連携した取組も求められます。

【県内プロスポーツチームの設立状況】

競技名	本県のプロチーム名	
サッカー	栃木ＳＣ 【Ｊ２】	栃木シティフットボールクラブ 【関東サッカーリーグ１部】
バスケットボール	宇都宮ブレックス【Ｂ１】	
野球	栃木ゴールデンブレーブス 【ルートインＢＣリーグ】	
アイスホッケー	Ｈ．Ｃ．栃木日光アイスバックス 【アジアリーグアイスホッケー】	
サイクルロードレース	宇都宮ブリッツェン 【ＪＣＬ】	那須ブラ―ゼン【ＪＣＬ】
３人制バスケ	UTSUNOMIYA BREX.EXE	

（令和４(2022)年 12 月現在）

③県内開催の主なスポーツ大会・スポーツイベント

県内の自治体が令和元(2019)年度から令和３(2021)年度までに主催・共催・後援したスポーツの競技大会・イベントのうち、全国大会や地域ブロック大会規模のものについて確認したところ、38 競技で 99 大会が県内で開催されています。

競技種目	大会名
野球	第 12 回関東壮年軟式野球選手権大会 鹿沼市長杯古希野球大会 高松宮賜杯第 63 回全日本軟式野球関東予選会 1 部・2 部 第 74 回関東軟式野球選手権大会
硬式野球	第 45 回全日本クラブ野球選手権大会関東予選会　第 62 回 JABA 足利市長杯大会
サッカー	第 29 回関東高等学校女子サッカー選手権大会 高円宮杯 JFA 第 33 回全日本 U-15 サッカー選手権大会関東大会 なでしこジャパン国際親善試合日本代表対メキシコ代表 皇后杯全国女子サッカー選手権大会
バレーボール	令和元年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会関東ブロックラウンド 第 35 回関東小学生バレーボール大会 令和元年度第 73 回関東高等学校男子バレーボール大会
バレーボール（6 人制）	第 76 回国民体育大会関東ブロック大会バレーボール競技 いちご一会とちぎ国体バレーボール競技リハーサル大会
バスケットボール	第 4 回全日本社会人バスケットボール選手権大会 第 1 回日本社会人女子バスケットボールフレンドリーシップ 40 第 2 回全日本社会人バスケットボール選手権大会関東ブロック大会 ＦＩＢＡ３Ｘ３ワールドツアーうつのみやファイナル 2019
陸上競技	第 56 回全国聾学校陸上競技大会栃木大会
バドミントン	令和 3 年度第 50 回記念全国高等学校選抜バドミントン大会 第 15 回関東小学生バドミントン大会 第 20 回日本バドミントンジュニアグランプリ 2021 第 26 回関東中学生オープンバドミントン大会 令和元年度関東高等学校バドミントン大会兼第 65 回関東高等学校バドミントン選手権大会　第 50 回記念全国高等学校選抜バドミントン大会
卓球	第 49 回全国高等学校選抜卓球大会　第 9 回平野早矢香杯卓球大会 第 28 回関東中学校選抜卓球大会　第 52 回全国中学校卓球大会 2021 年全日本卓球選手権大会（団体の部）
ソフトテニス	第 39 回関東小学生ソフトテニス選手権大会 第 71 回関東ソフトテニス選手権大会 第 52 回全国中学校ソフトテニス大会令和３年度全国中学校体育大会
ソフトボール	第 13 回東日本ミズノ杯実年ソフトボール大会 国体関東ブロックソフトボール大会 第 39 回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会　Ｊ．Ｄリーグ 第 73 回全日本総合女子ソフトボール選手権大会 第 23 回全日本女子ソフトボール選手権大会
ラグビー	令和元年度第 20 回関東高等学校ラグビーフットボール新人大会
アイスホッケー	第 14 回日光杯全日本中学・高校生アイスホッケー大会 国体関東ブロック予選会　第 77 回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技 関東中学校アイスホッケー大会兼全国中学校アイスホッケー大会関東代表決定戦 JOC ジュニアオリンピックカップ
ウエイトリフティング	第 37 回関東高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会 第 65 回関東ウエイトリフティング選手権大会
駅伝	すまいる駅伝　第 30 回関東中学校駅伝競走大会

	男子第 73 回女子第 29 回関東高等学校駅伝競走大会 男子第 74 回女子第 30 回関東高等学校駅伝競走大会
オリエンテーリング	2020 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会　スプリント競技部門
アーチェリー	第 76 回国民体育大会関東ブロック大会
空手道	令和元年度第 48 回関東高等学校空手道大会　第 14 回全関東空手道選手権大会 第 28 回空手道糸東会関東選手権大会
弓道	第 60 回関東弓道日光大会
グラウンド・ゴルフ	第 28 回関東地区グラウンド・ゴルフ栃木大会
ゲートボール	第 35 回北関東ゲートボール選手権大会
ゴルフ	第 62 回東日本医科学生総合体育大会 関信越高等学校ゴルフ選手権関東大会予選 関東高等学校ゴルフ選手権大会　鹿沼市ジュニアゴルフ大会 第 54 回日本女子オープンゴルフ選手権 2020 年度全国高等学校・中学校ゴルフ選手権大会 2021 年度全国高等学校ゴルフ選手権大会 2021 年度全国中学校ゴルフ選手権大会 第 88 回日本プロゴルフ選手権大会 石川遼 everyone　PROJECT　Challenge　Golf　Tourtournament PLDA レディースワールドチャンピオンシップ(ドライビングコンテスト) ＪＡＰＡＮ　ＰＬＡＹＥＲＳ　ＣＨＡＭＰＩＯＮＳＨＩＰ
ホッケー	令和 3 年度第 41 回関東高等学校選抜ホッケー大会
自転車	那須塩原クリテリウム　ジャパンカップサイクルロードレース ツール・ド・おやま（現：サイクルフェスタ） 令和元年度関東高等学校自転車競技大会
体操	令和元年度関東学生新人体操競技選手権大会
ディスクゴルフ	第 23 回関東オープンディスクゴルフトーナメント
トライアスロン	関東学生トライアスロン選手権那須塩原大会
なぎなた	第 63 回都道府県対抗なぎなた大会　第 59 回東日本なぎなた選手権大会
パークゴルフ	第 12 回関東パークゴルフ選手権大会
馬術	第 59 回全日本実業団障害馬術大会　第 71 回招待東日本学生馬術大会
抜刀道	令和元年第 3 回日本抜刀道連合全国大会
パワーリフティング	全日本実業団パワーリフティング選手権大会 全日本パワーリフティング選手権大会
ハンドボール	関東中学生選抜ハンドボール大会
フェンシング	全日本フェンシング選手権大会
ボウリング	第 50 回全国都道府県対抗ボウリング選手権大会
ボディビル	第 21 回関東マスターズボディビル選手権大会 第 22 回関東ジュニアボディビル選手権大会 第 10 回関東ボディフィットネス選手権大会
マラソン	第 32 回大田原マラソン大会　第 33 回宇都宮マラソン大会 鹿沼さつきマラソン大会　おやま思川桜マラソン大会
総合	第 68 回関東甲信越大学体育大会

これらの大会で本県を訪れることを契機として、本県の魅力ある食や農、文化等にもつなげる取組が求められます。

④県内スポーツ合宿の実施状況

本県においては、スポーツ合宿を対象とする統計等が存在せず、全体数の把握が困難ですが、参考として代表的な合宿施設に聞き取りを行ったところ、公益財団法人栃木県スポーツ協会が運営する今市青少年スポーツセンターでは、令和元(2019)年度に延べ約４千人のスポーツ合宿が行われています。

また、県内の滞在型民間スポーツ施設の聞き取りでは、延べ約 16 千人(令和元(2019)年度)の実績となっています。

このほかトップクラスが行う合宿地としても選ばれており、水泳飛込競技の日本代表合宿が日環アリーナ栃木で開催されたほか、知的障害者サッカーの日本代表候補強化合宿が県内で開催され、公立高校とのトレーニングマッチなどが実施されています。

【参考】他団体のスポーツ合宿統計調査結果（平成 30(2018)年度）

区　分	年間延べ合宿参加者	備　考
北海道	338,494 人	うち道外 135,013 人
宮崎県	193,610 人	県外からのみ
鹿児島県	152,536 人	県外からのみ
沖縄県	130,146 人	うち県外 126,974 人

⑤地域に根付くスポーツ文化

本県では、昭和 55(1980)年に栃の葉国体が開催され、その後の地域で盛んに行われるきっかけとなったスポーツが各地域に存在しています。

また、各市町が地域のまちづくりに向けて、積極的に推進する競技など、地域ごとに根付くスポーツ文化が多数存在します。

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会においても、県内各市町を舞台に行われた各競技が今後地域スポーツとして根付き、定着するような取組が求められます。

【地域に根付くスポーツ文化の例】

地域名	競技	主なチーム、施設等
足利市	レスリング	足利大学附属高校
大田原市	相撲	黒羽高校
矢板市	サッカー	矢板中央高校
日光市	ホッケー	ＬＩＥＢＥ栃木、グラクソ・スミスクライン
佐野市	クリケット	佐野市国際クリケット場

⑥スポーツ・アクティビティの提供状況

ラフティングやカヌー、ＳＵＰ（Stand Up Paddleboard)、トレッキングやハイキング、キャニオニングなど、豊富な自然等を生かした魅力的なスポーツ・アクティビティが県内各地で行われています。

日光国立公園内の那須高原地域、塩原温泉地域では、点在する観光スポットを走行性能の高い電動アシスト付スポーツ自転車（Ｅバイク）を利用し、サイクリングを楽しみながら周遊観光することで滞在時間の延長などにつなげる、スポーツ・アクティビティを生かした取組を進めています。

また、新とちぎ観光立県戦略では、今後増加が見込まれる訪日外国人観光客の誘客強化のため、県内の豊富な自然等を生かした外国人向けアウトドアコンテンツの造成・磨き上げの促進を掲げています。

［ラフティング］

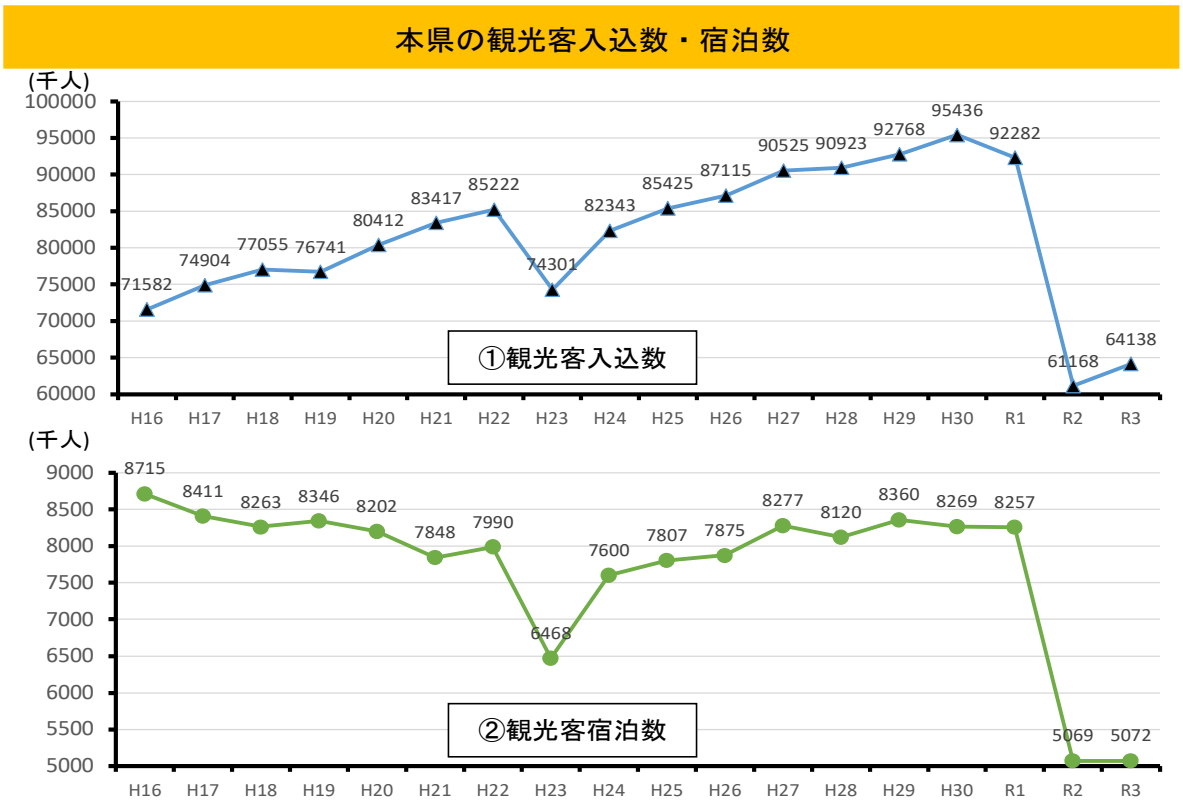
⑶本県への観光客入込動向

本県への観光客入込数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和２(2020)年以降は大幅に減少しておりますが、それ以前は東日本大震災が発生した平成 23(2011)年に減少したものの、増加傾向にあり、平成 30(2018)年には 95,436 千人と過去最高の水準となっています。

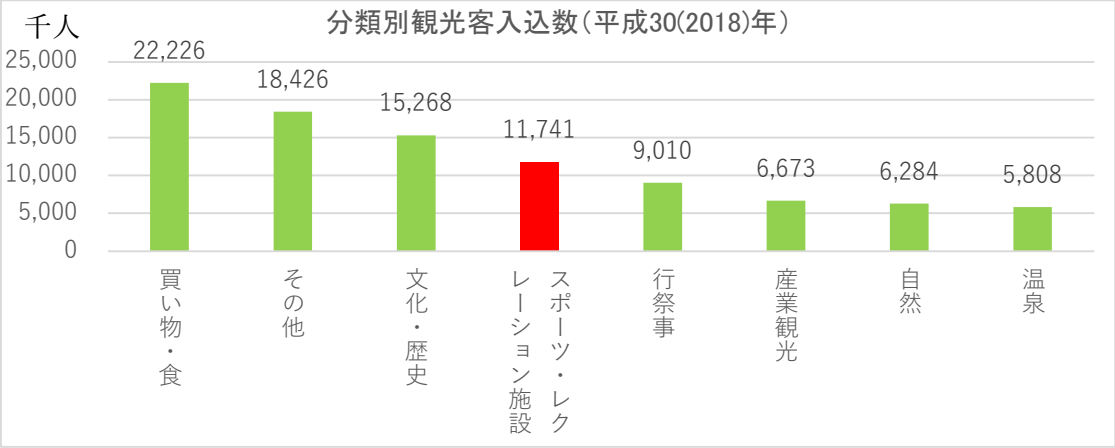
一方、観光客宿泊数については、震災や新型コロナウイルス感染症の影響による減少を除けば、8,000 千人程度で推移しています。

分類別の観光客入込数（平成 30(2018)）は、買い物・食、その他、文化・歴史の順に多く、スポーツ・レクレーション施設は 11,741 千人（12.3%）となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光需要の早期回復に向け、誰もが安全・安心に観光できる受入態勢の整備が求められています。



出典：栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果



⑷いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の有形・無形のレガシーの継承

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催による有形・無形のレガシーには様々なものがありますが、国際オリンピック委員会は、オリンピック開催によるレガシーを５つの区分に整理しており、これを参考として、両大会の主なレガシーを次のとおり整理します。

【いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の主なレガシー】

区　分	内　容	いちご一会とちぎ国体等のレガシー
スポーツレガシー	スポーツ実施人口の変遷やスポーツ環境の変化など	●する、みる、ささえる様々な形でのスポーツ参画人口の拡大 ●充実したスポーツ施設 ●スポーツ及びパラスポーツへの関心の高まり　等
社　会レガシー	官民一体の体制づくり、オリンピック・パラリンピック教育の推進など	●官民一体となったいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会による運営体制・ノウハウの構築 ●両大会への企業協賛等スポーツへの社会的理解の促進 ●いちご一会運動オールとちぎプロジェクトや航空会社職員によるおもてなし研修会の開催等による県民総参加でのおもてなしの醸成 ●障害及び障害者並びに障害者スポーツへの理解促進 ●デモンストレーションスポーツへの参加等を通じた健康づくりへの意識の高まり　等
環　境レガシー	都市再生、再生可能エネルギーなど	●県内企業の技術力を生かした取組（再生 PET 素材のユニフォーム等）や CO_2 フリーの「とちぎふるさと電気」の活用、FCV、EV を活用した電力供給による環境配慮の取組の一層の推進　等
都　市レガシー	公共交通インフラの整備、バリアフリー化など	●スポーツ施設、宿泊施設等のバリアフリー化 ●国体会場近隣での栃木県ＡＢＣプロジェクトの実施による新たな公共交通に向けた機運の高まり　等
経　済レガシー	雇用創出やテクノロジーの発達など	●国体等の開催を契機とした新たな雇用、全国から来県した選手等による交通、飲食等の消費増加 ●とちぎおもてなし電子クーポンの発行等による新たな栃木ファンの獲得　等

こうした、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催による有形・無形のレガシーを着実に継承し、「新しいとちぎ」づくりに向けた様々な取組につなげていくことが求められています。

⑸スポーツを活用した地域活性化に向けたＳＷＯＴ分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	**【強み（Strength）】** **○東京圏からのアクセスの良さ** **○充実したスポーツ施設** **○多くの競技における地域に密着したプロスポーツチームの存在** **○とちぎ医科学センターによるパフォーマンス向上につながる充実したサポート** **○温泉、農産物、伝統工芸品、歴史・文化等の多様な地域資源** **○山や川、湖など豊富な自然を生かした県内各地で行われるアクティビティ　等**	【弱み（Weakness）】 ○スポーツと観光や農業、文化など他産業とつなげる組織がない ○スポーツを生かした地域活性化、地方創生等に向けた人材・情報不足 ○本県スポーツ施設等の利活用推進に向けた情報発信の不足 ○スポーツを「する」「みる」「ささえる」それぞれを目的とする旅行者等の受入環境の整備不足　等
外部環境	【機会（Opportunity）】 ○東京 2020 オリンピック・パラリンピックや世界陸上等の開催によるスポーツの機運向上 ○ワーケーションや多様な働き方の推進等新しい生活様式の定着 ○デジタル社会の進展による迅速で広範なＰＲ機会の確保　等	【脅威（Threat）】 ○少子・超高齢化社会の到来や社会的人口移動等による人口減少による担い手やスポーツ活動の需要の不足 ○新型コロナウイルス感染症によるスポーツマインドの低下 ○他自治体によるスポーツツーリズムの推進による競争の発生　等

①本県における強み

・東京圏に近接し、都心から約１～２時間でアクセスできる立地環境の中、充実したスポーツ施設が存在し、スポーツを「する」環境に加え、プロを含むトップレベルの試合や大規模大会等の開催などスポーツを「みる」環境も整っています。

・多競技に渡り地域に密着したプロスポーツチームの存在や、とちぎスポーツ医科学センターによるパフォーマンス向上につながる充実したサポート体制など競技水準向上に向けた体制が整っています。

・また、山や川、湖など豊富な自然を生かした県内各地で行われるアクティビティと温泉、農産物、伝統工芸品、世界遺産等の多様な地域資源が存在し、スポーツと観光を組み合わせた取組を進めるための土壌が整っています。

②本県における弱み

・スポーツを活用した地域活性化に向けて、スポーツと観光や農業、文化など他産業をつなげる役割が求められる中、県では国が設置を推奨し、それらの役割を担う「地域スポーツコミッション」が未設置であり、取組を推進するための体制が整備されていません。

・スポーツを生かした地域活性化、地方創生等に向けて、スポーツツーリズム等の推進に必要な人材・情報が不足しており、スポーツと他産業を合わせた商品造成などマーケティング等に対応可能な人材育成や情報収集、データ分析が必要です。

・本県スポーツ施設等の利活用推進に向けた情報発信が不足しており、デジタルツールを活用した、さらなるＰＲが求められます。

・スポーツを「する」「みる」「ささえる」それぞれを目的とする旅行者等の受入環境が不足しており、相談先の設置や商品造成の促進が必要です。

③本県における機会

・東京 2020 オリンピック・パラリンピックや 2025 年に東京で開催される世界陸上競技選手権大会等のスポーツイベントが継続的に開催され、人々に夢や感動を与えることで今後もスポーツの機運が高まった状況が期待でき、本県のスポーツツーリズム等の推進に追い風となることが期待できます。

・また、新しい生活様式が定着することで、ワーケーションや多様な働き方の推進等が期待され、スポーツに関わる機会の増加が期待されます。

・デジタル社会の進展により、これまで情報発信が困難であった方に対しても、効果的なＰＲが可能となり、本県の充実したスポーツ環境等について広く発信することが期待されます。

④本県における脅威

・少子超高齢社会の到来や社会的人口移動等による人口減少はスポーツをする人口減少であるとともに、スポーツツーリストを受け入れる担い手不足にもつながります。

・また、新型コロナウイルス感染症による影響により、ステイホームの取組が継続した結果、スポーツに取り組むことが困難な状況が続き、スポーツマインドの低下につながってしまったことが懸念されます。こうした状態がさらに続くことにより、スポーツへの関心の低下につながります。

・他自治体等によるスポーツツーリズムの推進により、競争が生じる結果、さらなる取組が必要となることが想定されます。

【本県が持つ強み】

〇東京圏に近接し、恵まれた立地環境
〇スポーツを「する」環境に加え、プロスポーツなど「みる」環境にも対応した充実したスポーツ施設の存在
〇全国で最も多い競技に渡るプロスポーツチームの存在
〇とちぎ医科学センターによるパフォーマンス向上につながる充実したサポート体制
〇県内各地で行われる自然を生かしたアクティビティ
〇温泉、農産物、伝統工芸品、世界遺産等の多様な地域資源

【今後の取組】

スポーツツーリズムによる地域活性化の推進

〇スポーツイベント・大会・合宿等の誘致
〇スポーツやアクティビティを目的とする来県増加 等

⑹様々な地域別特徴を生かした取組

本県は地域ごとに様々な特徴を有し、スポーツと自然、文化、歴史、食などを組み合わせたスポーツツーリズムの推進に当たり、ターゲットに応じた取組を検討することが可能です。

（出典：とちぎ旅ネット）

区分	県央・東エリア	県南エリア	日光エリア	那須エリア
地理的な位置	県央部、県東部	県南西部、県南部	県北西部	県北東部
自然環境等	平野、緩やかな山間地	平野、緩やかな山間地	急峻な山岳地帯が存在	急峻な山岳地帯が存在
観光地の主な特徴	宇都宮餃子®、SL の旅、益子焼、鹿沼組子など地域に根ざした特色ある文化	歴史情緒あふれる風景	世界に誇る歴史的文化遺産や日光国立公園の美しい自然	牧場や高原リゾートなど、豊かな自然、温泉地
主な県立スポーツ施設、公園	総合運動公園、グリーンスタジアム、県立射撃場、井頭公園	県南体育館、温水プール館、みかも山公園、とちぎわんぱく公園	日光霧降アイスアリーナ、日光国立公園、日光だいや川公園	県北体育館、那須野が原公園、日光国立公園
主なアクティビティ	カヌー、スカイダイビング、パラグライダー等	熱気球、スカイダイビング、モーターパラグライダー等	鬼怒川ライン下り、ラフティング、キャニオニング、カヌー等	カヌー、ＳＵＰ、Ｅバイク、パラグライダー等

⑺県内スポーツツーリズムに対するニーズ・期待等

①スポーツを見ることへの関心の高まり

家計調査（令和３(2021)年・都市階級・地方・都道府県庁所在市別１世帯当たり支出金額）におけるスポーツ観戦料に対する支出を調べると、栃木県庁所在地である宇都宮市の状況は新型コロナウイルス感染症の流行による減少が見られるものの、全国及び隣県と比較して高く、スポーツを「みる」ことに対する県民の関心が高まっており、こうしたニーズに応えていくことが求められます。

家計調査（スポーツ観戦料）の推移

区分	2017	2018	2019	2020	2021
全国	743 円	842 円	1,126 円	432 円	315 円
宇都宮	602 円	1,430 円	3,527 円	467 円	427 円

②県民のスポーツツーリズムへの期待等

スポーツツーリズムの推進に向けて、本県内のニーズ等を把握するためアンケート調査を行った結果は、次のとおりです。

【県民対象アンケート結果】

○栃木県がスポーツツーリズムの推進に向けて取り組むべき項目(複数回答可)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	スポーツ大会・イベントの誘致・実施	138	34.5
2	スポーツ合宿の誘致	50	12.5
3	スポーツと文化・歴史など観光との連携	84	21.0
4	スポーツと食・グルメとの連携	147	36.8
5	スポーツアクティビティの充実	84	21.0
6	その他	5	1.3
7	わからない	135	33.8
	無回答	0	0.0
	N （%ﾍﾞｰｽ)	400	100

「スポーツと食・グルメとの連携」が 36.8%、「スポーツ大会・イベントの誘致・実施」が 34.5%と高い割合となっています。

○栃木県がスポーツツーリズムの推進に向けて取り組むべき内容(複数回答可)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	施策を推進する体制づくり	120	30.0
2	積極的なPR	139	34.8
3	担い手の育成	100	25.0
4	スポーツ資源（施設、チーム等）のさらなる活用	130	32.5
5	日常的なスポーツの推進	113	28.2
6	その他	4	1.0
7	わからない	118	29.5
	無回答	0	0.0

「積極的なＰＲ」が 34.8%、「スポーツ資源（施設、チーム等）のさらなる活用」が 32.5%と高い割合となっており、施策を推進する体制づくりも 30.0%となっています。

○スポーツツーリズムの推進による栃木県のブランド力向上への期待

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	とても期待できる	23	5.8
2	期待できる	175	43.8
3	どちらでもない	164	41.0
4	そう思わない	27	6.8
5	まったくそう思わない	11	2.8
	無回答	0	0.0

ブランド力向上に「とても期待できる」「期待できる」回答が 49.6%となっています。

【他都道府県民対象アンケート結果】

○スポーツ・アクティビティを目的とする旅行先を選ぶ際に重視する内容(複数回答可)

競技種目に適した施設や環境（自然環境）が充実している	専門のインストラクターがいる	ロケーションが良い	リゾート感や非日常性がある	まわりに観光地・温泉・商業施設等があり、スポーツ以外の楽しみがある	気軽に行ける、利便性が良い	料金が安い	その他
207 38.6	68 12.7	215 40.1	216 40.3	313 58.4	308 57.5	279 52.1	2 0.4

スポーツ・アクティビティを目的とする旅行先を選ぶ際に重視する内容としては、「まわりに観光地・温泉・商業施設等があり、スポーツ以外の楽しみがある」や「気軽に行ける、利便性がよい」の割合が高くなっています。

○スポーツ・アクティビティを目的とする旅行先を選ぶ際の情報入手方法(複数回答可)

民間の旅行サイトやホームページ	自治体・観光協会のホームページ	スポーツを実施する施設・宿泊先のホームページ	SNS（facebook、Twitter、Instagram等）	旅行ガイドブック・雑誌	家族や友人などの口コミ	その他
345 64.4	184 34.3	213 39.7	136 25.4	212 39.6	122 22.8	2 0.4

スポーツ・アクティビティを目的とする旅行先を選ぶ際の情報入手方法としては、「民間の旅行サイトやホームページ」「スポーツを実施する施設・宿泊先のホームページ」の割合が高くなっています。

Ⅲ スポーツを活用した地域活性化・地方創生等の目指すべき姿

ここまでに整理した現状と課題等を踏まえ、本県のスポーツを活用した地域活性化・地方創生等の目指すべき姿を次のとおり掲げ、各種取組を推進します。

■東京 2020 オリンピック・パラリンピックやいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催を契機として浸透したとちぎの魅力と知名度のもと、本県の充実したスポーツ資源が各種スポーツイベント等で活用されるとともに、スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等の推進により県内にスポーツツーリズムが普及し、県内外の交流人口の拡大を通じ、にぎわいにあふれ、地域の活性化が図られています。

■スポーツを通じた人づくりや地域づくりが進められ、地域を担う人材が育成されるとともに、高齢者、女性、子ども、障害者など誰もが健康でいきいきと暮らし活躍しています。

■また、これらの取組によりスポーツを通じたとちぎのブランド力向上が図られ、県民がふるさとに愛着や誇りを持つとともに、多くの人が、とちぎに住み続けたいと思っています。

Ⅳ　本県のスポーツを活用した地域活性化・地方創生等の具体的な取組

１　スポーツツーリズムの推進による地域活性化・地方創生への取組

※栃木県重点戦略「とちぎ未来創造プラン」における SDGs の考え方を踏まえ、各取組の位置付けを明示

(1)　スポーツコミッションの設立

○スポーツツーリズムの推進にあたっては、大規模大会やスポーツイベント等の誘致、スポーツと観光等の他産業をつなげる役割が求められ、こうした役割を担う組織として、スポーツ庁は地域スポーツコミッションの設立を推進しており、令和３(2021)年 11 月現在で全国に 177 団体が設立されています。

○本県は県域レベルでは地域スポーツコミッションが未設置であり、スポーツを目的とする旅行者の相談やスポーツと観光、食や農、文化を組み合わせた取組を推進するための体制が整備されておりません。このため、県、市町、スポーツ団体、民間企業等で構成される栃木県スポーツコミッション（仮称）を設立します。

○設立にあたっては、設立総会等の開催により機運醸成を図るほか、ＨＰの作成等によりＰＲに努めつつ、本県の強みである８つのプロスポーツチーム等と連携することにより、高い知名度を生かし情報発信力を確保するほか、情報収集、データ分析を踏まえた専門性が高く、戦略的な体制を構築します。また、将来的な自走を念頭に置きノウハウの蓄積や必要な人材育成等に取り組むとともに、拠点の在り方を検討します。

○栃木県スポーツコミッション（仮称）が観光や文化等と一体となったスポーツツーリズムの取組を推進しやすい体制に移行するため、県においても、教育委員会事務局に設置されているスポーツ振興課を知事部局に移管します。

【ＫＰＩ】

指標名	基準値	目標値
地域スポーツコミッションの設立	未設置	１団体（2023 年度）

(2)　大規模大会・スポーツイベント等の誘致

○総合スポーツゾーンの完成により競技に応じて国際大会の開催も可能な環境が栃木県総合運動公園に整備されたほか、いちご一会とちぎ国体では、県内 25 市町で各競技の試合が開催されるなど、大規模大会やスポーツイベント等の開催が可能な環境が県内各地に整っています。また、県内には山や川、湖などの豊かな自然環境が存在し、それらを生かしたスポーツイベントの開催が可能です。

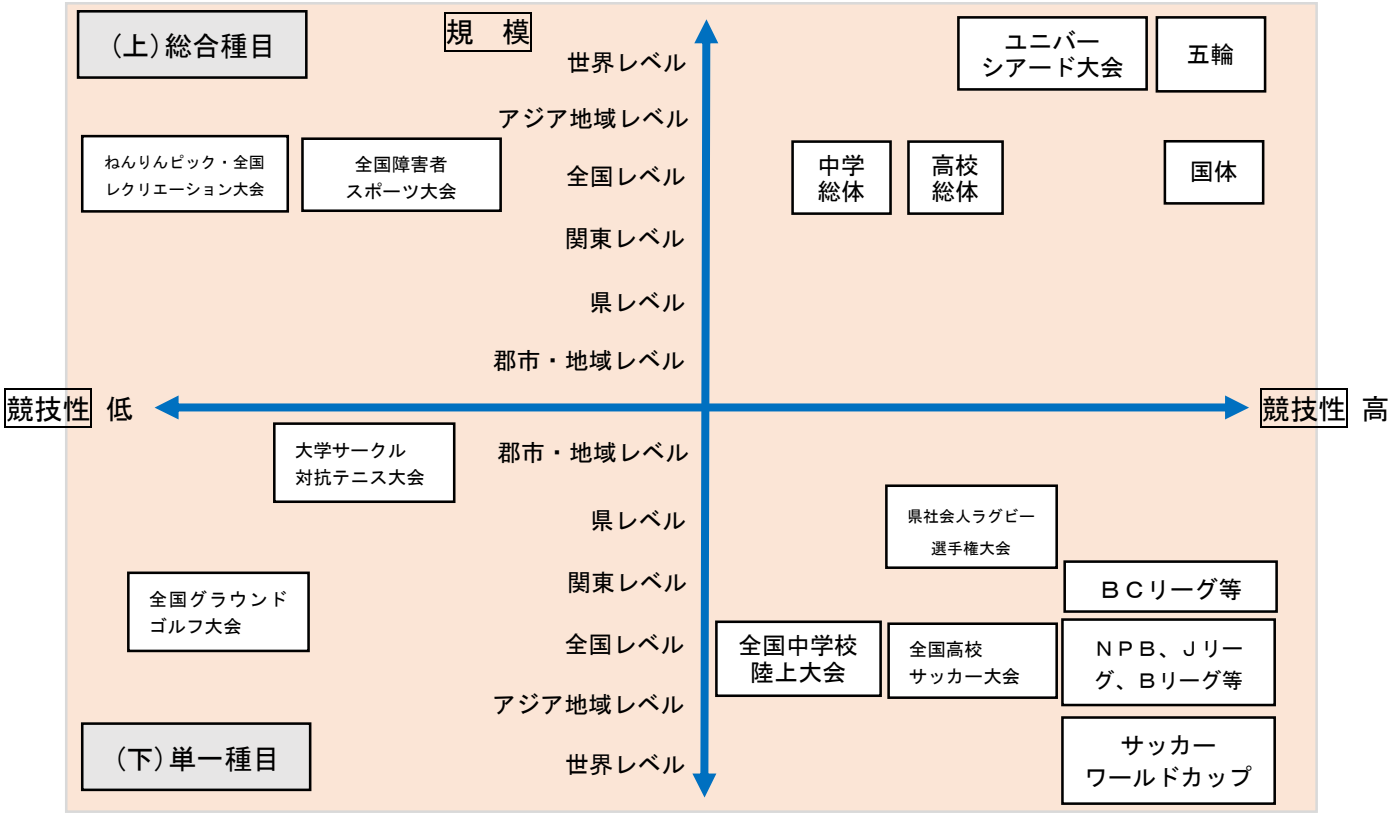
○これら県内資源の有効活用を図り、本県において、多くの参加者や観客が見込まれる規模の大きな大会やイベントなどが開催されるよう、設立する栃木県スポーツコミッション（仮称）により情報収集や施設調整等に取り組むほか、開催費用の一部を助成するなど、円滑な開催に向けた支援を行います。その際、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会

で培った大規模大会の運営ノウハウやプロスポーツチームが持つ様々なノウハウを積極的に活用するなど、地域資源の有効活用を図ります。

○スポーツ大会やイベントには様々なものがあることから、スポーツイベントの類型化を行い、絞り込みを行った上で、ターゲット及び開催に必要な項目等を明確にし、本県スポーツ施設の利用状況等を踏まえつつ、効率的な誘致に取り組みます。

○近年は様々な競技における新リーグの設立や、国主導による大学スポーツの振興・発展に向けた一般社団法人大学スポーツ協会の設立など、新たなスポーツ振興の枠組みが整備されており、そうした組織の動向に着目し、大会開催情報の収集等に努めます。

【スポーツイベント類型化の考え方の例示】



○スポーツをみることがきっかけで、スポーツをする人口の増加につながることや、スポーツイベントへの参加がきっかけで関心が高まり、スポーツをみることにつながるなどの相乗効果が図れるよう、様々なイベントの誘致に努めるほか、子どもの運動習慣や県民の健康づくりにつながるための機会づくりに努めます。

【ＫＰＩ】

指標名	基準値	目標値
大規模大会や国際大会の誘致	１回(2022)	複数回誘致（2025 年度までに）

⑶　スポーツ合宿等の誘致

○県内には国体等に向けて整備した施設に加え、市町等が所有する公共スポーツ施設や民間スポーツ施設が豊富に存在します。平成 30(2018)年度体育・スポーツ施設現況調査では、主な競技種目別に見ても、いずれも全国と比べて豊富な状況にあります。

○スポーツツーリズムの推進に取り組む他団体においては、社会人から小学生まで全国で幅広く行われ、宿泊客数の増加も見込めるスポーツ合宿の誘致により、スポーツ施設の有効活用に向けた取組が進められています。

○本県は、東京圏に近接し都心から約１～２時間でアクセスできる立地環境にあり、交通の要衝としての地理的優位性を有し、東京圏等のスポーツチームが少ない負担で充実したスポーツ環境を利用できる強みがあります。

○こうしたことを踏まえ、県外のスポーツチーム・団体等が行うスポーツ合宿が県内のスポーツ施設等で行われるよう、栃木県スポーツコミッション（仮称）により戦略的な誘致に取り組むほか、合宿時の宿泊費用の一部助成に加え、高い競技力を有する県内スポーツ団体等を活用した練習相手の確保支援や合宿地におけるおもてなし、とちぎスポーツ医科学センターにおけるパーソナルデータに基づくトレーニングメニューの提案などにより他県との差別化を図ることで、合宿地として選ばれる仕組みづくりに取り組むとともに、円滑な実施に向けて各種支援を行います。

○また、県内には、地域に根付くスポーツ文化に合わせた施設が各市町に存在するほか、ＡＩや５Ｇなど未来技術を活用した最先端のトレーニング環境を整備し、スポーツ合宿等での県外からの来訪者数のさらなる増加を目指す自治体が登場するなど地域ごとに特徴があり、合宿先として選ばれるための魅力が高まりつつあります。こうした施設との連携を図り、栃木県スポーツコミッション（仮称）を通じて、ＨＰやデジタルパンフレット等によりＰＲを行うことで様々なチームやアスリートのスポーツ合宿等が本県で行われるよう誘致に努めます。

○さらに、スポーツ合宿地として選ばれた後も、リピーターとして定着を図ることが合宿者数の増加に向けて重要であることから、施設の夜間利用時間の設定や回数券・定期券の設定等によるさらなる利便性の向上を図り、合宿参加者の満足度向上につながるよう、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会で培ったおもてなしを生かしながら、受入・相談体制の充実に努めるとともに、デジタルを活用した合宿総数の把握に努めます。

【ＫＰＩ】

指標名	基準値	目標値
スポーツ合宿等の相談団体数	－	300 団体（2025 年度）

⑷　テーマ別スポーツツーリズムの推進

（サイクルツーリズム）

○栃木県自転車活用推進計画に基づき、自転車先進県として「サイクルツーリズムで成長するとちぎ」の実現に向けて、引き続きモデルルートの走行環境整備や県内の道の駅を活用したサイクルステーションの整備、サイクルツーリズムに関する情報発信などに取り組みます。

サイクルツーリズム

（アウトドアツーリズム）

○本県の豊かな自然を生かして行われるアウトドアスポーツが県内各地で行われていることから、栃木県スポーツコミッション（仮称）を通じた情報発信を強化し、アウトドアスポーツの普及・推進に努めます。その際、これまでの教訓を生かしながら、アウトドアスポーツの安全のための情報についても発信します。また、新とちぎ観光立県戦略に基づき、引き続き外国人向けアウトドアコンテンツの造成・磨き上げを促進し、外国人観光客の誘客促進を図ります。

（ゴルフツーリズム）

○国の調査結果によれば、県内には 153 のゴルフ場（全国第３位）があり、人口 10 万人当たりの施設数は全国で最も多く、年間利用者は約 440 万人存在します。

○県内のゴルフ場においては、第 90 回日本オープン選手権（令和７(2025)年度）の開催が決定されるなど、ゴルフを通じた取組の機運が高まっています。

とちまるゴルフクラブ(18 番ホール)

○県では、とちまるゴルフクラブ（栃木県民ゴルフ場）が設立 30 周年（令和４(2022)年度）を迎えたことから、他の県有施設と一体となってアニバーサリーイベント等を開催しました。コロナ禍において、密にならないスポーツとしてゴルフ場の魅力に注目が集まり、当施設における令和３(2021)年度の利用者数も過去最高の 38,193 人を記録しており、引き続き利活用の推進に努めるとともに、観光情報の充実を図るなどゴルフと観光との連携にも努めます。

（新たなテーマ別ツーリズムの検討）

○本県において、スポーツツーリズムが普及し、今後継続的に推進されるためには、流行や消費者ニーズに応えるテーマ別スポーツツーリズムへの対応が重要であることから、競技特性や様々なスポーツツーリズムのニーズを捉え、戦略的にテーマ別スポーツツーリズムの推進に取り組む必要があります。そのため、本県が持つ強みを生かした新たなテーマ別ツーリズムの推進に向けた検討を行います。

⑸　スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等の推進

○スポーツと観光を組み合わせた取組を進めることにより、スポーツを目的として本県を訪れる方々に対して、新たな付加価値の創出が期待されます。

（スポーツ大会等での食や文化等の発信やデジタルマーケティングの活用）

○いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開・閉会式の会場となった栃木県総合運動公園では、本県の食や文化、産業等について積極的な情報発信を行う「いちご一会広場」を設置しました。また、デジタルマーケティングを活用して、「とちぎおもてなし電子クーポン」を発行し、再び観光などで本県を訪れる際に利用できる仕組みとすることで、リピーターや両大会を契機とした「栃木ファン」の獲得に向けた取組を行ったところであり、今後は、登録いただいた方々に対し、本県の情報を積極的に提供していきます。

（地域資源に触れる機会の創出）

○大規模大会やスポーツイベント、スポーツ合宿等で本県を来訪する方が、本県の強みである温泉や農産物、伝統工芸品、世界遺産等の多様な地域資源に触れる機会につながるよう、栃木県スポーツコミッション（仮称）を通じ、各種取組を推進します。

（グリーンツーリズムとの連携）

○都市部の日々の暮らしでは体験できないような農山村地域の人々との交流や、自然・文化に触れる体験などを楽しんでもらう「グリーンツーリズム」は、競技に集中できる環境を求めて行われるスポーツ合宿等との親和性があり、他県では、スポーツに集中できる離島環境と地域ならではの食を結びつけた取組や廃校を活用したスポーツ合宿等の取組が行われており、そうした取組を参考としながら、本県でも新鮮な地域の農産物等を活用した健康な食事の提供など、農山村地域の強みを生かしたスポーツ合宿の充実に向けた取組等を検討します。

（アーバンスポーツへの期待）

○東京 2020 オリンピックにおいて、スケートボードやＢＭＸ、スポーツクライミング等の新しい種目が採用され、それらの種目で日本人オリンピアンが生まれるなどにより、アーバンスポーツが注目されるようになっています。県内市町では、ＢＭＸなどが楽しめるサイクルパークやボルダリングが可能なスポーツウォールを新たに整備するなど、アーバンスポーツの普及やスポーツを通じた地域の新たな魅力づくりに取り組んでいます。これらにより、若い世代のスポーツを楽しむ機会の充実がいっそう期待されると

渡良瀬サイクルパーク（出典）栃木市ＨＰ

総合公園多目的広場ボルダリング壁
（出典）さくら市ＨＰ

ともに、若者に選ばれる魅力ある地域づくりにつながることが期待できることから、他県の動向も踏まえつつ、その可能性について検討します。

（県営都市公園の利活用推進）

○県営都市公園は、身近にテニスやアスレチック、ニュースポーツなどのスポーツやレクリエーションを楽しむ場として活用されており、各施設の魅力が伝わり、広域的な利活用が推進されることで、県内外の交流人口拡大につながることが期待されることから、引き続き、ＳＮＳ等デジタルも活用しながら積極的な情報発信を図ります。

（Ｅバイクの活用等による周遊観光の推進）

○日光国立公園内に点在する観光スポットを走行性能の高い電動アシスト付きスポーツ自転車（Ｅバイク）でサイクリングを楽しみながら周遊観光する取組を推進することで、滞在時間の延長等につなげるとともに、交通渋滞緩和や排出ガス等環境負荷の低減を図ります。また、８つの県立自然公園の魅力向上や周辺地域の活性化に向けて、おすすめハイキングコースを掲載するなど、ウォーキングと豊かな自然を生かした取組を推進します。

（市町で行われた競技の定着）

○栃の葉国体において、市町で行われた競技が大会後も地域に定着し、スポーツを通じた地域づくり等の取組につながった事例が県内各地域に存在します。いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会においても、市町で行われた競技が大会後も地域に定着し、その地域におけるライフスタイルとしてスポーツが定着するきっかけづくりやスポーツを通じた青少年の育成等につながるよう、地域スポーツの活性化に対する助成等を通じて支援します。

（ｅスポーツの活用）

○いちご一会とちぎ国体の文化プログラムとして、「全国都道府県対抗ｅスポーツ選手権2022 TOCHIGI」が日環アリーナ栃木で開催され、選手・観客合わせて延べ約2,000人が参加するなど、大きな盛り上がりを見せました。ｅスポーツは、若者に人気が高く、年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、誰もが取り組めるといった特徴があり、若者等の交流機会の創出や交流人口の拡大、高齢者や障害者の社会参加の促進、生きがいづくりなどが期待されていることから、本県においても、ｅスポーツを活用した地域活性化の取組として、ｅスポーツイベント「とちぎｅスポーツフェスタ（仮称）」や高齢者等を対象としたｅスポーツ体験会を開催します。

（出典）全国都道府県対抗ｅスポーツ選手権
2022 TOCHIGI 公式サイト

全国都道府県対抗ｅスポーツ選手権
2022 TOCHIGI

⑹　県民協働によるスポーツツーリズムの推進

○大規模大会やスポーツイベント等の開催には主催者や参加者だけでなく、大会等の運営をささえるボランティアの存在が不可欠です。県では現在、スポーツボランティアリーダー研修会を実施し、市町スポーツ推進員を通じたスポーツボランティアの育成に努めており、引き続きスポーツをささえる人口の拡大に向けた取組を推進します。

○いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会では、受付や会場美化、式典運営補助などを行う運営ボランティアを 2,287 人養成したほか、選手団サポーターを 1,270 人、聴覚障害のある方への情報提供やコミュニケーション支援を行う情報支援スタッフを 575 人養成し、支援を必要とする方への対応を行いました。

○今後は、両大会においてボランティア活動に参加された方が、引き続きスポーツイベント等でのボランティアに関わっていけるよう環境整備に努めるほか、本県のスポーツツーリズムの推進に向けては、県内においてスポーツボランティアへの関わりを希望する県内外の方が活躍できる仕組みを整えます。

○スポーツツーリズムの推進にあたって、必要な財源を確保するため、新たに県において、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会レガシー基金」を設置し、本県のスポーツを活用した地域活性化の取組に賛同する県民等からの寄附の受入れを可能とするなど、新たに、県民等からの支援を効果的に施策に反映しやすい仕組みを構築します。

【ＫＰＩ】

指標名	基準値	目標値
いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会レガシー基金への寄附の件数	―	50 件 （2025 年度までに）

２　社会的な課題に係るスポーツコミッションによるデジタルも活用した県外への情報発信等

東京 2020 オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルス感染症対策のため無観客開催となったものの、多くの国民の注目が集まりました。

本年度、本県で開催されたいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会も多くの方に注目されたところです。

こうした「スポーツへの関心の高まり」を生かした取組も国体等のレガシーを継承した取組として期待されます。

国の第３期スポーツ基本計画における「今後５年間に総合的かつ計画的に取り組む施策」のうち「スポーツによる地方創生、まちづくり」では、政策目標として、スポーツを活用した地域の社会課題の解決を促進することが挙げられています。

高齢者の生きがいづくりや女性の社会参画・活躍のほか、障害者の社会参加の促進や健康増進などの社会的な課題について、本県においても、栃木県スポーツ推進計画 2025 のもと、取組を進めています。

こうした状況を踏まえ、今後はこれらの社会的な課題にかかる、さらなる認知度の向上や理解促進等のほか、本県が行う取組について、デジタル技術も活用しながら、栃木県スポーツコミッション（仮称）による県外への情報発信に積極的に取り組みます。

(1)　スポーツを通じた高齢者の生きがいづくり

○急速に高齢化が進展する中、地域活動等への意欲を持つ高齢者が活躍できる「生涯現役社会」の実現が求められており、県では、(一財）栃木県老人クラブ連合会が行う「栃木県老連スポーツ大会」の開催支援や「ねんりんピックとちぎ」の開催及び「全国健康福祉祭」への本県選手団の派遣を行っています。

○また、いちご一会とちぎ国体では、デモンストレーションスポーツ 31 競技が開催され、選手や関係者、観客合わせて 11,191 人が参加するなど、高齢者を含む、より多くの方にスポーツへの参加の機会を提供することができたところです。

○このほか、とちぎ健康の森に設置するとちぎ健康づくりセンター・とちぎ生きがいづくりセンターでは、温水プールやトレーニング室、テニスコートや運動フロア等の設置のほか、体力測定や健康づくり講座の開催等、高齢者がスポーツや健康づくりに取り組める環境が整っています。

○今後は、栃木県スポーツコミッション（仮称）を通じ、県内で行われる高齢者が参加するスポーツイベント等を対象として、県外に対してもＳＮＳ等デジタルの活用により積極的にＰＲすることで、県外者の県内イベントへの参加の促進等を図るなど、県内イベント等が魅力的なものとなり、スポーツを通じた高齢者の生きがいづくりにつながるよう取り組みます。

（参考）いちご一会とちぎ国体で開催されたデモンストレーションスポーツ

No.	競　技　名	開催日	会場地市町村	参加人数	競技会場
1	ウォーキング	5月7日(土)	那須烏山市	260	那須烏山市内特設ウォーキングコース
2	パークゴルフ	5月15日(日)	足利市	187	足利市借宿緑地パークゴルフ場
3	ウォーキング	5月28日(土)	益子町	357	サヤド･城内坂周辺アート探訪コース
4	ペタンク	5月28日(土)	高根沢町	333	高根沢町町民広場
5	クリケット	6月5日(日)	佐野市	190	佐野市国際クリケット場
6	ママさんバレーボール	6月5日(日)	芳賀町	331	芳賀町第二体育館
7	カローリング	6月12日(日)	高根沢町	141	高根沢町キリン体育館
8	フォークダンス	6月12日(日)	小山市	608	栃木県立県南体育館
9	アームレスリング	6月19日(日)	宇都宮市	299	栃木県総合文化センター
10	３Ｂ体操	6月19日(日)	那珂川町	234	那珂川町総合体育館
11	ドッジボール	6月19日(日)	佐野市	330	花･花薬局さの体育館 （佐野市運動公園市民体育館）
12	スポーツウエルネス吹矢	6月26日(日)	足利市	296	FUKAI SQUARE GARDEN 足利 （足利市民体育館）
13	ふれあいトランポリン	7月2日(土)	茂木町	304	茂木町民体育館
14	３x３	7月3日(日)	宇都宮市	405	オリオンスクエア
15	長ぐつアイスホッケー	7月10日(日)	日光市	188	栃木県立日光霧降 アイスアリーナ
16	フライングディスク	7月16日(土)	市貝町	610	城見ヶ丘運動公園 市貝町農業者トレーニングセンター
17	フットサル	7月17日(日)	宇都宮市	408	宇都宮市清原体育館
18	スポーツチャンバラ	7月24日(日)	大田原市	242	栃木県立県北体育館
19	ダンススポーツ	8月7日(日)	大田原市	785	栃木県立県北体育館
20	タグラグビー	8月27日(土)	栃木市	699	栃木市総合運動公園陸上競技場
21	キッズトライアスロン	8月28日(日)	那須塩原市	464	那珂川河畔公園周辺特設コース
22	オリエンテーリング	9月3日(土)	矢板市	146	矢板運動公園
23	スマートフェンシング	9月4日(日)	上三川町	39	上三川町体育センター
24	バウンドテニス	9月4日(日)	野木町	130	野木町立野木中学校体育館
25	ウォーキング	9月10日(土)	鹿沼市	343	鹿沼市内特設 ウォーキングコース
26	エアロビック	9月11日(日)	那須町	488	那須町 スポーツセンター
27	さいかつぼーる	9月11日(日)	那須塩原市	286	三和住宅にしなすのスポーツプラザ （にしなすの運動公園）体育館
28	ソフトバレーボール	9月11日(日)	真岡市	244	真岡市総合体育館
29	ターゲット・バードゴルフ	9月11日(日)	壬生町	219	壬生町総合公園
30	フットベースボール	9月11日(日)	栃木市	600	栃木市総合運動公園多目的グラウンド
31	リレーマラソン	9月11日(日)	大田原市	551	DI　STADIUM（美原公園陸上競技場）
32	キンボールスポーツ	9月17日(土)	下野市	171	下野市石橋体育センター
33	インディアカ	9月25日(日)	さくら市	303	さくら市氏家体育館
			合計	11,191	

○また、ｅスポーツの活用による高齢者の社会参加の促進や、生きがいづくりの創出等に向けて、新たに高齢者等を対象とするｅスポーツ体験会を開催します。

⑵　スポーツを通じた女性活躍の促進

○東京 2020 オリンピック及びいちご一会とちぎ国体の陸上競技においては、初種目として男女混合 4×400m リレーが行われるなど、テニスや卓球競技等の限られた種目で見られた男女混合による競技が増え、大会への女性参加率の向上や女性活躍の機会の確保がよりいっそう図られました。

○スポーツ競技は従来から性差による区別のもとで大会等が行われてきましたが、こうした動きが今後も増え、スポーツを通じた女性活躍の促進が図られ、また、人々の意識が変革していくことにより、固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見や固定観念、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に向けた理解促進がいっそう期待されます。

○先進７ヵ国首脳会議（Ｇ７サミット）開催に伴う、Ｇ７栃木県・日光男女共同参画・女性活躍担当大臣会合が、令和５(2023)年６月に日光市で開催されることが決定するなど、開催地として本県の男女共同参画社会の実現に向けた機運が高まっています。本県スポーツにおける女性の活躍を促す取組等を栃木県スポーツコミッション（仮称）を通じて、ＳＮＳ等デジタルの活用により県外にも発信し、県外の声を聞くことで、さらに推進します。

⑶　スポーツを通じた障害及び障害者への理解促進、共生社会の実現

○東京 2020 パラリンピックが世界 162 ヵ国・地域等・22 競技で開催され、様々な障害のあるアスリートたちが創意工夫を凝らして限界に挑む姿は、多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる共生社会の実現に向けて、社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性など、世の中の人に気づきを与えてくれました。

○また、いちご一会とちぎ大会が開催され、選手、関係者、観客合わせ 63,933 人の参加の下、個人競技７競技、団体競技７競技に加え、オープン競技３競技が実施され、多くの人々に感動を与え、未来につなぐ大会とすることができたところです。今後は、東京 2020 パラリンピックのレガシーと合わせて、いちご一会とちぎ大会のレガシーを確実に継承し、スポーツを通じて障害や障害者への理解を深め、社会参加を促進し、障害の有無にかかわらず共に生きる社会の実現に向けて、障害者スポーツのさらなる普及・推進が必要です。

○引き続き、障害者スポーツの拠点施設である、わかくさアリーナの有効活用や他のスポーツ施設における障害者スポーツの利用拡大等を通じて、障害者スポーツの普及・推進に努めるとともに、選手の育成・強化及び指導者の養成と資質の向上に取り組み、本県障害者スポーツの一層の振興を図ります。また、栃木県障害者スポーツ大会等を開催するほか、全国障害者スポーツ大会に選手団を派遣し、障害者の健康の保持・増進及び社会参加の促進に努めます。

○知的障がい者サッカー日本代表候補強化合宿が県内で行われ、公立高校とのトレーニングマッチが開催されるなど、本県の充実したスポーツ環境を生かした、新たな取組が進められています。こうした機会が増えることで、障害者スポーツのさらなる振興が期待できることから、栃木県スポーツコミッション（仮称）を通じ、ＳＮＳ等により積極的に県内外への情報発信に努めるとともに、スポーツ合宿等の誘致を行います。

○このほか、ｅスポーツの活用による障害者の社会参加の促進や、生きがいづくりの創出等に向けて、他県の先進例を参考としながら、取組を検討して参ります。

⑷　スポーツを通じた健康増進

○スポーツを楽しみながら適切に継続することは、子どもの体力向上や成人期以降の生活習慣病の予防・改善、介護予防につながり、健康寿命の延伸や医療費抑制などへの貢献が期待されます。いちご一会とちぎ国体では、デモンストレーションスポーツ 31 競技が開催され、多くの県民の方に参加いただき、気軽に楽しみながらスポーツに取り組むことで、生涯を通じた運動習慣や健康づくり等に対する人々の関心を高めることができたところです。

○今後は日常生活における運動習慣等の定着につなげていくことが重要であり、家庭で家族が一緒に楽しく体を動かす機会や通勤等での自転車の活用や家事中のながら運動等により、日常生活における身体活動量を増やすことの重要性等について普及・啓発を図るほか、本県のスポーツと観光や農産物等を組み合わせて行うスポーツツーリズムの推進等により、県内外の方が本県で楽しみながらスポーツに取り組む環境づくりを推進します。

○県内には、気軽に楽しみながら歩くことを通じて、健康づくりができるウォーキングコース「とちぎ健康づくりロード」が 167 コース選定されています。地域の歴史や文化、食などを織り交ぜたコースが多くの方に利用されるよう、栃木県スポーツコミッション（仮称）を通じて、ＳＮＳ等デジタルの活用により「とちぎ健康づくりロードサイト」の紹介など、県内外への情報発信を行います。

Ⅴ　スポーツを活用したＳＤＧｓへの貢献

○経済成長を優先してきた従来型の価値観からの転換を図り、住んでいる国や地域、人種、性別などに関わらず、誰もが尊厳を持って生きることができ、経済、社会、環境の３側面が調和した持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指し、2015 年国連サミットにおいて「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ宣言」（ＳＤＧｓ）が採択されました。

○ＳＤＧｓでは「スポーツは持続可能な開発における重要な鍵となるもの」とされるなど、スポーツが重要な役割を担うことが期待されており、国においても、ＳＤＧｓの認知度向上に向けた「スポーツＳＤＧｓ」の推進を提唱し、ＳＤＧｓの認知度向上やスポーツが多様な社会課題の解決に貢献しうることについての普及啓発に取り組んでいます。

○今後、スポーツツーリズムの推進に向けて、スポーツイベントや合宿の誘致、スポーツと組み合わせた観光等に取り組むに当たり、本県が選ばれるためにはマーケティングにおいて重要さを増しているＳＤＧｓについて、適切に取り組んでいくことが求められます。

○こうしたことを踏まえ、スポーツを活用したＳＤＧｓへの貢献にかかる本県の考え方を整理

した上で、「選ばれる栃木」に向けて取組を推進します。

本県のスポーツを活用したＳＤＧｓへの貢献～とちぎスポーツＳＤＧｓ～

項目	関連するゴール
１　スポーツツーリズムの推進による地域活性化・地方創生への取組	
⑴スポーツコミッションの設立	17
⑵大規模大会・スポーツイベント等の誘致	4 8 11
⑶スポーツ合宿等の誘致	6 8 11 15
⑷テーマ別スポーツツーリズムの推進	6 8 11 15
⑸スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等の推進	4 6 8 11
⑹県民協働によるスポーツツーリズムの推進	17
２　社会的な課題に係るスポーツコミッションによるデジタルも活用した県外への情報発信等	
⑴スポーツを通じた高齢者の生きがいづくり	3 11
⑵スポーツを通じた女性活躍の促進	5 11
⑶スポーツを通じた障害及び障害者への理解促進、共生社会の実現	10 11
⑷スポーツを通じた健康増進	3

Ⅵ　とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略の推進体制及び進行管理

○とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略の取組により、本県のスポーツツーリズムの定着及び着実な推進を図ります。その際、栃木県スポーツコミッション（仮称）により、指標や取組について進捗管理を行うとともに、スポーツの成長産業化に向けて、スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致等にかかる経済効果の算定等について検討を行います。

○設定した数値目標等の達成状況や取組の進捗状況を適切に把握・検証した上で、取組の見直しと改善を図る仕組み（ＰＤＣＡサイクル）を導入します。

VERY GOOD LOCAL

とちぎ